

## 沖縄伝道所問安記

大会伝道局理事長 堤 隆

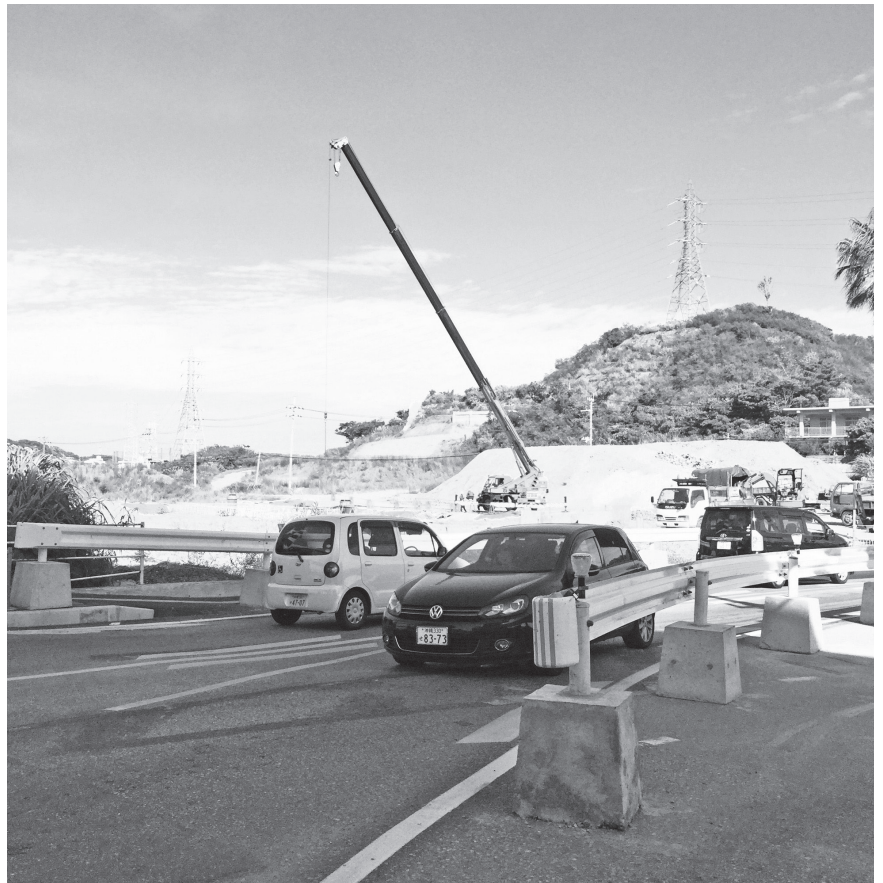
日航機が火を噴いた数日後、数年に一回という猛吹雪きで航空各社が軒並み欠航を決めていく新千歳空港を飛び立ち、那覇空港に降り立つまでには12時間が経過していました。しかし、北海道の初夏のような沖縄に身も心もリフレッシュさせられ、斎藤修理事、南安夫理事とも合流して問安が始まりました。

川越先生ご夫妻と共に西原町役場を訪れ、西原西地区土地区画整理事業についてヒアリングをしました。本来ならば、平成28年度（役所の言い方に倣う）即ち2016年度にこの事業は完了するはずでした。ところが、土地造成が停滞し伝道所会堂建築も着手できない状況に至っています。町の担当者は、計画延長（平成31年度＝2019年度まで）を監督官庁の県に申請していると話されました。期間延長の理由は区域内の河川の変更改修工事の遅延と沖縄電力の高圧線鉄塔の移設工事の遅延とのことでした。

このため、集会所と牧師住居のための補償も土地区画整理事業が完了するまで続けられることを確認し合意しました。交渉途中に、町が伝道所の現有地を買い取る可能性、あるいは町の所有地と等価交換することなども話し合われましたが、いずれも可能性が極めて低いことが示されました。このような可能

性を探ったのは、このままでは土地・建物移転のための補償金が実質目減りしていくことを考慮してのことでした。町の担当者は他の住民の方々からも同様の心配が寄せられていることを明かし、「大変ご迷惑をおかけしています」と謝罪されました。町としては、現在このための検討対策チームを立ち上げようとしている最中であるとのことでした。建築着手の際には何らかの補償がなされるものと思われますが、ねばり強く交渉して行く必要があります。

このような町との交渉を終えて、その日の午後伝道所の祈禱会に参加しました。理事を交えての



祈禱会は前回の問安から恒例のようになりました。今回は、その後持たれる打ち合わせに同席して下さることになっていた「大浜建築設計室」の大浜氏も参加してくださいました。斎藤理事のヨハネ黙示録からの奨励により、「忍耐が求められる者を待ち続けていてくださる主イエス」のことが説かれ、一同こころを熱くして祈りを合わせました。

その後、伝道所の方々による心尽くしの茶菓の接待をいただきながら、打ち合わせを進めました。3年の計画延長ということになったことなどを報告しましたところ、不安や心配は尽きないけれど

も土地建物移転完了に至るまで伝道所、伝道局、設計者の三者が常に一致していることが重要であるとの意見が出されました。そこで、具体的には実施設計まで終わっているのに、建築着手までこれ以上の設計変更は行わないこと、構造計算書を「大浜建築設計室」が預かり保管することが確認されました。因みに大浜設計士によりますと現在の沖縄での建築費用は坪単価80万～90万円と高騰しているとのことでした。この課題を主の前に果たすべく、諸教会の皆様の更なるお祈りとお支えをお願いいたします。

## 大会応援伝道の報告 雲雀ヶ丘伝道所の取り組み ～都市近郊型の伝道を念頭に～

雲雀ヶ丘伝道所牧師 吉平 敏行

2012年5月4日、東京中会によって開設された雲雀ヶ丘伝道所は、貸しホールを礼拝所、マンションの一室を集会室とする、「都市近郊型」開拓伝道を継続しています。池袋駅から西方へ急行で15分、ひばりヶ丘駅を出て、駅前開発工事が拡張する中、徒歩2分程の所にあります。チラシ配布は効果無く、ホールの自動ドアの両脇に日曜

の朝だけ「雲雀ヶ丘教会」のバナーを掲げて存在を示します。中身は伝統的な礼拝形式ですが、それも入ってみないと分かりませんし、自動ドアは触れるのも勇気が要ります。従って、当伝道所の伝道は、自ずと教会員を通して家族、友人を導くという形になります。一度でも礼拝を共にし、集会室を観ていただければ、「それほど悪くない教会」と思っただけの

のですが、その段階に達するまでに時間と忍耐を要します。

そうした環境にもかかわらず、大会応援伝道の助けとみなさまの祈りと支援により、2013年に二人、2014年に一人、2015年に一人と、主は毎年受洗者を起こして下さっています。会員にとっても「大会応援伝道」は、伝道のた



めに自らを訓練する機会となり、講師の先生の説教と講演に励まされ、養われる貴重な時となりました。

昨年10月25日（日）、近畿中会の鈴木攻平先生にお越しいただき、礼拝では「まじめ人間の回心」（使徒16:25～）と題する説教を、昼食を挟み、午後の講演では使徒信条から「聖徒の交わり」についてお話しいただきました。長年牧会に携わられた鈴木先生らしい視点に教えられ、講演では、信仰者の交わりが聖書に基づく、信仰告白と教会の秩序に則ったものであるとの基本を学びました。参加者は21名。その内の一人は、かつて柏木教会の青年会時代に鈴木先生を知っており、その時代の友人らの長年の祈りと交わりに守られること40余年、主の導きにより再び教会を訪ねていました。昨年春から雲雀ヶ丘伝道所の礼拝に継続して出席し、鈴木先生がいらっしゃった秋には、心を定め、洗礼の準備をしていました。今年の待降節に、奥様と友人らに見守られて受洗されたことに、主の大いなる祝福と息の長い「教會的な伝道」の道のりを見る思いがしました。

雲雀ヶ丘伝道所は駅近くの施設を借りていることで経済的負担が大きいため、最近、会員の中からも会堂を求める声が起こっています。そうした中、大会応援伝道を3年連続実施させていただいたことで、全国の諸教会の方々に覚えていただき、篤い祈りにも支えられ、様々な支援につながることも多くあり感謝しております。小さな伝道所ゆえに、中会応援伝道や大会応援伝道を実施することで経済的にも宣教の大きな助けになりました。重ねて感謝いたします。しかしながら、いつまでも応援伝道だけに頼ってはいただけないと、今年も久野真一郎先生（札幌琴似教会牧師）をお呼びして特別伝道礼拝を企画しています。その準備として、5月8日と15日の2週にわたり「春の礼拝」を実施し、秋の伝道礼拝に向けて会員の予行演習を行いました。礼拝の平均出席が8名ほどの小さな群れですが、都市近郊で教会堂がないという状態からどう脱却するのか、皆で知恵を出し合い、祈りながら取り組んでいます。みなさまのお祈りに加えていただけたら幸いです。

---

## 大会応援伝道の報告 下館伝道所 ～全国の諸教会に覚えられて～

下館伝道所牧師 西橋直行

齋藤修牧師（磐田西教会）を講師として、2015年10月25日（日）午前10時30分より下館伝道所で、説教題『価値観の変革』～神から来る価値～と題して、マタイ20章1～16節によって語られ、出席者は男子5名、女子4名、計9名（内、求道者2名）でした。午後3時30分より小山教会では、説教題『おとめの祈り』～信仰と待望の姿勢～と題して、マタイ25章1～13節によって語られ、出席者は男子5名、女子11名、計16名（内、求道者6名）でした。

下館伝道所は、齋藤先生が、かつて15年間、奉

仕された伝道所であり、それぞれ懐かしさもあり、感銘深い説教を聞きとり、人数は少なくても、充実した集会となり、大きな慰めと励ましとを与えられました。

小山教会は、現在4年間、無牧の教会で、中家盾先生、渡部静子先生の月1回の説教奉仕と、西橋牧師が月に2回の奉仕をしている関係で、応援伝道を合同で実施することになりました。小山教会五十嵐長老が北関東連合長老会で報告されたものを次に記します。

「16名の賛美の歌声も高らかに響き、いつもと

違っていました。チラシを配り、葉書出しなどいろいろやってみて反応があることの楽しさを味合い、地域についての無知、求道者名簿の不備などを感じながら教会員が成長させて頂く機会でもあったと感謝しております。教会から遠ざかりがちだった姉妹が、応援伝道礼拝を機にその後も礼拝に出席したことはうれしい限りでした。」

大会から遣わされた一人の講師に直に触れることができ、語られる福音によって信仰の成長が与えられ、今後の教会の歩みに大きな力となることでしょう。下館では、95歳の婦人が毎週会員の送り迎えによって喜んで礼拝を守っています。また、半年ほど送迎できなくなっていた87歳の婦人が、牧師、会員の車で出席できるようになり「一番の願いがかなった」と



喜ばれています。小山教会は、本年3月付属幼稚園が閉鎖されましたが、北関東の諸教会に支えられて、新しい出発をしています。今後、神さまは、全国の教会の祈りを聞き上げてくださり、必ずや試練を乗り越えて神の栄光を顕すことを願っています。

## 大会応援伝道の報告

今年は、総会で掲げた「伝道集会を開こう」という目標を実現すべく、大会伝道局に申請書を提出し、大会応援伝道を行うこととしました。内容を受け、計画書を提出し、7月の大会伝道局理事会で正式に承認されて、準備を整えました。

九州中会長崎伝道所牧師崔炳一（チェ・ビョンイル）先生を説教者として招き、ポスターを作成し、道央地区諸教会・伝道所に配布すると共に、全国諸教会・伝道所に宛てて案内ハガキを発送しました。伝道集会直前には伝道所周辺地区に5,000枚のチラシを新聞折り込み広告にして配布しました。

8月23日（日）午後2時「キリストにある希望に導かれて」と題して伝道集会を実施しました。出席者は27名（男性10名、女性17名、内伝道所関係1名）でした。31脚を用意した椅子の大半

## 札幌手稲前田伝道所

札幌手稲前田伝道所指導教職 **八田 牧人**

が埋まり、大きな喜びと感激が与えられました。また、静かに語られる崔先生の説教が出席者全員に染み入り、希望の意味と大切さ、もたらされた恵みについて感謝することができました。

（北海道中会「伝道局報 2015年10月」より）

### 今年度前半の大会応援伝道

遠浅教会 5月22日（日）

講師 堀 一善（近畿中会無任所教師）

静岡池田伝道所 7月10日（日）

講師 川越 弘（沖縄伝道所牧師）

釧路教会 8月21日（日）

講師 松田真二（大和教会牧師）